第２回　かのや未来デザイン会議

期　日：令和４年12月21日（水）
時　間：13:30～15:00
場　所：７階　大会議室

会　次　第

１　開　会

２　対策本部長あいさつ

３　報　告
　　前回の振り返り（第１回目の内容について）

４　協　議
（１）重点プロジェクト（案）について
　　①重点プロジェクトの構成について
　　②「ＡＬＬかのや」移住・定住促進プロジェクト（社会減対策）
　　③みんなで育む「かのやっ子」プロジェクト（自然減対策）
　　④未来につなぐ地域づくりプロジェクト（持続可能な地域づくり）
　　⑤かのやシビックプライド･プロジェクト（市民のまちへの愛着と誇りの醸成）

（２）その他

５　閉　会

骨子（案）

第１章　ビジョンの策定にあたって

1　策定の趣旨
2　ビジョンの位置付け
3　計画期間
4　SDGsとの関連

第２章　鹿屋市を取り巻く人口減少の現状（特徴）　説　明

1　人口の動向
（１）人口推移　（２）年齢３区分別人口と高齢者割合の推移
（３）人口動態の推移　（４）地域別人口の増減と高齢化率
2　人口減少の要因
（１）若年世代の転出　（２）少子化の進行
3　人口が減ると予想されるこんなこと
（１）産業・雇用への影響　（２）地域生活への影響
（３）医療・福祉対策への影響　（４）行財政サービスへの影響

第３章　これまでの取組の効果検証と各調査等から見えてきた課題　協　議

1　社会減対策の視点
（１）移住・定住・雇用創出　（２）関係・交流人口
2　自然減対策の視点
（１）結婚や妊娠・出産・子育ての希望を叶える　（２）教育環境の充実
（３）健康・生きがいづくり
3　持続可能な地域づくりの視点
（１）地域生活機能の充実　（２）郷土愛の醸成　（３）安全安心で快適な暮らし

了

第４章　ビジョンの基本的な考え方

1　人口の将来目標
2　重点プロジェクトと施策の展開

第５章　重点プロジェクト

1　「ＡＬＬかのや」移住・定住促進プロジェクト（社会減対策）
2　みんなで育む「かのやっ子」プロジェクト（自然減対策）
3　未来につなぐ地域づくりプロジェクト（持続可能な地域づくり）
4　かのやシビックプライド・プロジェクト（市民のまちへの愛着と誇りの醸成）

今回
再協議

第６章　ビジョンの推進

1　効果の検証
2　モニタリング指標
3　国への提言

報告（第１回目の振り返り）②

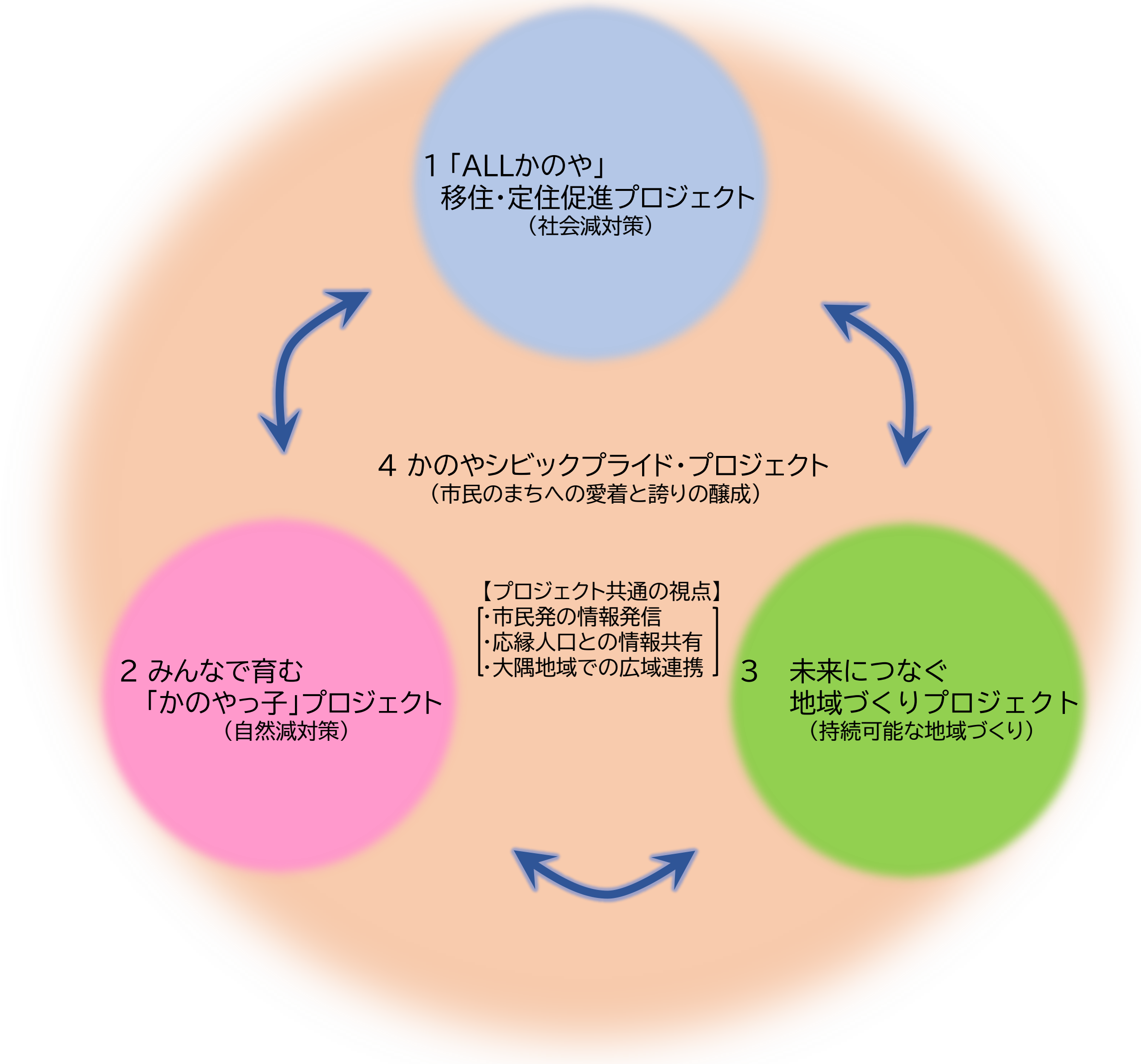
これまでの作業等について

月	内　容
６月	○第１回対策本部会議・第１回作業部会（９日） ※　ビジョン策定の基本的な考え方等について
７月	○第２回作業部会「地域の未来デザイン部会」（12日） ○第２回作業部会「まちの魅力向上部会」　（13日） ○第２回作業部会「ライフプラン応援部会」　（14日） ※　骨子(たたき台)及び効果検証について ○総務市民環境委員会 市内所管事務調査　（15日） ※　ビジョン策定の基本的な考え方等について
８月	○アドバイザー協議(15～16日)　※　効果検証、検討シート等について
９月	○総務市民環境委員会 勉強会(20日) ※　人口減少の現状、効果検証、施策体系等について ○第３回作業部会「地域の未来デザイン部会」(22日) ○第３回作業部会「ライフプラン応援部会」　(26日) ○第３回作業部会「まちの魅力向上部会」　(27日) ※　効果検証、施策体系、新たな取組(重点施策)等について **○第２回対策本部会議(30日)** ※　効果検証、施策体系、新たな取組(重点施策)等について
10月	**○第１回未来デザイン会議(12日)** ※　ビジョン策定の基本的な考え方、効果検証、重点施策(案)について **【主な意見等】** **・総合計画との位置付けについて** **・デジタルの活用は重要な視点** **・市全体のブランディング、情報発信が大事** **・特色ある地元企業との課題解決型の取組** **・「農業といえばかのや」、鹿屋の強みとして「農業」はキーワードになる。** **・様々な分野の高校があることから、独自の教育の視点を入れても良い。**
11月	**○第４回作業部会「地域の未来デザイン部会」（２日）** **○第４回作業部会「まちの魅力向上部会」　（２日）** **○第４回作業部会「ライフプラン応援部会」　（２日）** ※　効果検証、施策体系、重点施策について **○アドバイザー協議（８日）　※　施策体系、重点施策等について** **【主な意見等】** **・今回のビジョンは、総合計画にテコ入れし、今まで以上に思い切った施策を打ち出すものである。** **・何を変えるか、何をするのか、重点プロジェクトが大事。** **３～５つ（社会減対策、自然減対策、持続可能な地域づくり＋情報発信）のプロジェクトを作り、それに魂を込める。** **・施策体系は、総合計画にテコ入れするものなので、そのままでも良い。** **・プロジェクト毎の成果指標の設定は難しい。総合計画の目標設定に沿いながら、取組を強化していけば良いのではないか。**
12月	**○第３回対策本部会議(14日)** ※　重点プロジェクト（案）等について **○第２回かのや未来デザイン会議(21日)** ※　重点プロジェクト（案）等について

協議（１）ー①

重点プロジェクト

～2060年に9万人程度の人口を維持するために～



※重点プロジェクト(案)については、現時点(12/21)で考えられる施策の案であり、今後、事業内容や費用対効果、実施時期、取組の実現の可能性などを精査していくものです。

応縁人口：市外に住む本市出身者や本市と御縁がある方で本市に関心を持ち、応援してくれる人々

重点プロジェクト ≪社会減対策≫

協議(1)ー②

1 『ALLかのや』移住・定住促進プロジェクト
～鹿屋との縁(つながり)を増加＆深化する･･･関係人口から移住・定住へ～

鹿屋市の特徴・課題

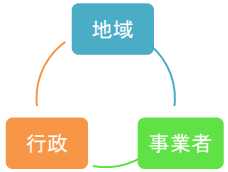
・移住希望者、本市出身者等への情報発信力の不足。
・コロナ禍で地方回帰の機運が高まっており、子育て世代の移住希望者からの相談件数が増えている。
・子育て世帯を対象とする移住支援制度が不十分

趣 旨

「鹿屋の情報発信」、「人(地域・住民)とのつながり」、「働く場の確保」に注力し、鹿屋との縁(つながり)を増加または深化することで、将来の移住・定住につなげます。

主な取組

鹿屋を知る 鹿屋情報の効果的な発信（メタバースなどデジタル活用による情報発信、「かのやファン倶楽部」への若年層の取込みなど）
鹿屋で働く 多様な働き方の支援（高度人材マッチング、副(複)業支援、サテライトオフィス誘致、新たな工業団地の整備など）
鹿屋で叶える 夢の実現への支援（起業支援、憧れのライフスタイル(畑・山が近くにある田舎暮らし)の提供など）



○移住先の決め手：自分の役割(根っこを張る場所)を見つけられるか
(地域・住民とのつながり、生計確保の手段がある)
○ターゲット：Uターン者等(縁のある人)、子育て世代

テーマ
鹿屋市との縁(つながり)の
“増加＆深化”

地方移住に興味・関心のある人 → 鹿屋に興味・関心を持つ人 → 移住する人

STEP1：まずは鹿屋を知ってもらう、情報を伝える(つなげる)

□移住サポートセンターの機能強化
(届く情報発信、響く対応)
□「かのやファン倶楽部」やふるさと納税を活用した鹿屋の魅力・情報・発信

STEP2：実際に体験してもらう・味わってもらう

□地域おこし協力隊制度を活用した就農、事業承継等の取組
□短期幼稚園留学（子どもが幼稚園に通いながら家族で田舎暮らし体験）
□子育て世帯向け移住体験ツアー（食・自然、少年団・部活動体験など）
□コワーキングスペースの活用(テレワーカー対応、事業者間交流など)

STEP3：鹿屋を選んでくれた人をサポート

□移住へのサポート
移住者支援金拡充（東京圏外）
□働く場の確保(就業支援)
産学官連携による雇用対策
□住まい・暮らしへの支援
子育て世代の住まい確保支援

即移住にはつながらなくても････

関係人口 鹿屋に縁を持つ人や体験者等による情報発信、鹿屋への愛着度ＵＰ、将来の移住先としての優先度ＵＰ

≪自然減対策≫

重点プロジェクト

2　みんなで育む「かのやっ子」プロジェクト　～切れ目ない支援で子育てしやすいまちづくり～

鹿屋市の特徴・課題

・結婚希望者の独身でいる理由は「出会いの機会が少ない」が多い。
・合計特殊出生率や出生率は高いが、出生数は年々減少している。
・子どもを持つことについて、経済的な不安や将来の社会全体に不安を持っている。
・子育てにかかる精神的・身体的負担を感じている。
・子育てに対する社会や職場の理解を求めている。
・育児サポートを求めている人がいる。(親族等が近くにいない等)

趣　旨

ライフステージにおけるこれまでの支援に加えて、新たな施策・支援を行うとともに、地域とともに子育てができる環境づくりを強化し、「子育てしやすいまち」として実感されることで、少子化対策につなげます。

ライフステージ　切れ目のない支援

出会い・結婚　妊娠・出産　乳幼児　小・中学生　高校生～

主な取組

1【出会い・結婚】出会いや結婚を希望する人へのサポート

□結婚サポーターの設置
□新婚生活への経済的支援

2【妊娠・出産～小・中学生】子育てに対する不安解消に向けたサポート

□新たな経済支援
□産後の母親に対する精神的・経済的負担の軽減
（産後ケア・子育て短期支援(ｼｮｰﾄｽﾃｲ)体制の拡充、紙おむつ等家庭へのごみ袋支援）
□保育所入所申請のオンライン化
□こどもまつりの開催　□病児保育体制の見直し
□地域とともに子育てできる環境整備
（寺子屋の増設、子ども会や寺子屋でのｲﾝｸﾞﾘｯｼｭｷｬﾝﾌﾟ開催）

3【高校生～】次代を担う若者への人生設計のサポート

□高校生対象のライフデザインセミナーの開催
□条件付き給付型奨学金の導入

現在の支援

【出会い・結婚】
イベントの開催

【妊娠・出産】
不妊治療費助成
出産育児一時金(国)
出産準備金(国)
産後ケア　等

【乳幼児】
新生児へのおむつ購入助成
チャイルドシート無料貸出
子育て支援施設
保育料無償化(３～５歳児)
子ども医療費助成　等

【小・中学生】
放課後児童クラブ
児童手当、就学援助費
児童扶養手当
子ども医療費助成　等

【高校生～】
高校授業料無償化
鹿屋市奨学資金制度、各種奨学金
高等教育の修学支援(国)(大学生～)
子ども医療費助成(高校生まで)　等

重点プロジェクト ≪持続可能な地域づくり≫

3　未来につなぐ地域づくりプロジェクト～地域づくりを再始動～

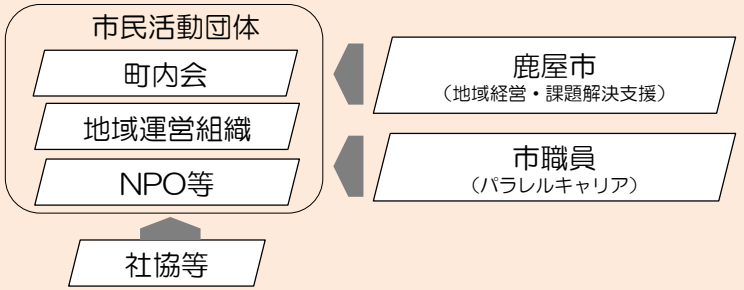
鹿屋市の特徴・課題

・町内会活動の担い手不足、加入者の減少
（約5割の町内会で高齢化率が40％を超過）
・コロナ禍で住民の交流の機会が減っている。
（地域のつながりが希薄化している。）
・地域運営組織を作り、地域の課題解決に向けた取組を行っている団体がある。（気運もある。）
・一人暮らしの高齢者数が増加しており、災害や不慮の事故などに不安を感じている。
・買い物や通院等の移動手段に困っている地域がある。
・空き家が増えている。

趣旨

市民活動団体の自走化に向けた地域づくりを支援・推進するとともに、そこに不足する機能は、民間団体や市職員、外部人材が連携して補完する体制を整える。

また、地域の未来を見据えた地域経営の在り方や、地域の特性を踏まえた課題解決支援に対する本市の新たな仕組みづくりを推進する。



主な取組　多様な主体の連携による地域の特性に応じた新たな地域経営の仕組みづくり

地域の未来を見据えた地域経営のあり方や、自助努力で解決できない地域課題の解決について、市及び多様な主体の連携により、新たな仕組みづくりを推進します。

1　みんなで支え合う地域経営へのチャレンジ

□地域経営の視点を踏まえた新たな共生・協働やコミュニティ活動支援の仕組みづくり
（町内会・コミュニティ協議会・地域運営組織・NPO等の活動に対する支援、総合支所等の機能見直し等）

□市民の困り事を複数の機関が連携して、一体的に解決する仕組みづくり
（地域包括支援センター、基幹相談支援センター等が連携した相談体制の構築）

2　地域課題解決に向けた支援体制の構築

□移動ニーズや地域特性に応じた輸送手段の確保・取組支援
（乗合ﾀｸｼｰ、自家用有償輸送、ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ輸送、広域連携による公共交通維持）

□デジタルを活用した地域課題解決支援の取組
（IoT活用による見守り支援、ﾃﾞｼﾞﾀﾙ人材育成、移動型行政ｻｰﾋﾞｽ導入検討）

□市民活動団体を補完する支援体制の構築
（市職員のﾊﾟﾗﾚﾙｷｬﾘｱ、NPO・社協等との連携）

□民間との連携による空き家の利活用促進の取組
（宅建協会・民間事業者と連携した空き家有効活用）

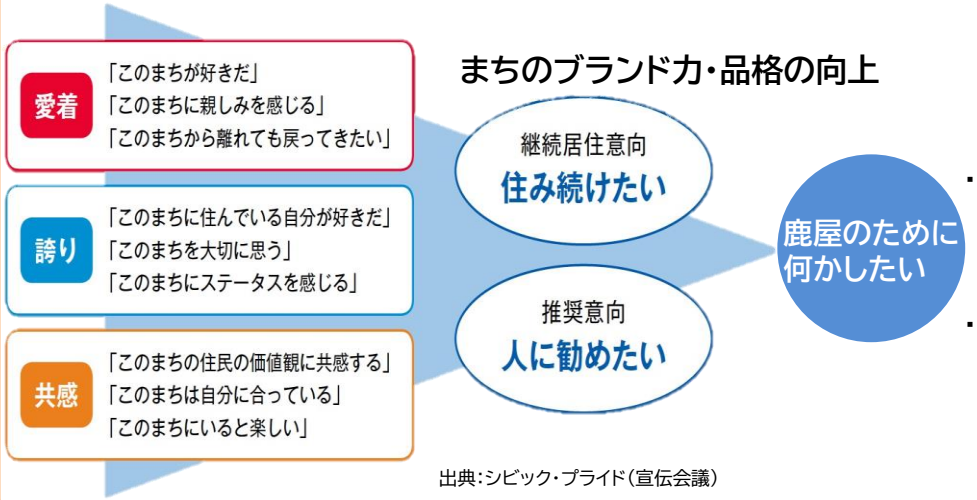
重点プロジェクト ≪市民のまちへの愛着と誇りの醸成≫

4　かのやシビックプライド・プロジェクト　～躍動と感動　ワクワクするまちづくり～

鹿屋市の特徴・課題

- 鹿屋をもっと面白いまち、誇れるまちにしてほしいという声がある。
- コロナ禍で、社会が大きく変化する中、ワクワク、楽しくなるコト、モノが少ない。
- スポーツや文化・芸術、食や農業など鹿屋の特徴や強みを生かして、市民のシビックプライド（まちへの愛着と誇り）を醸成していく必要がある。

趣　旨



出典：シビック・プライド（宣伝会議）

- 鹿屋市の多様な魅力や地域資源を多くの市民に知ってもらい、体感してもらうことで市民のシビックプライド（愛着と誇り）の醸成を目指します。
- シビックプライドの醸成は、主体的に地域に関わる市民が増え、それが更なるシビックプライドへとつながります。
- 主体的に地域に関わる市民の想いや取組は、域外への「共感」となり、その「共感」は、鹿屋を応援してくれる応縁人口につながります。

シビックプライド：「都市に対する市民の誇り」。単なるまち自慢や郷土愛ではなく、「ここをよりよい場所にするために自分自身がかかわっている」という、当事者意識に基づく自負心を意味する。

主な取組

市民情報特派員による情報発信
市×市民×応縁人口＝情報発信・共有

1　まちなかや生活にスポーツや文化・芸術、農業がある環境づくり

□鹿屋らしさをアピールできるスポーツや文化・芸術等のイベント創出
□農家暮らし・田舎暮らしを体験できる場所づくり
□スポーツツーリズムの推進（スポーツ×鹿屋・大隅の魅力体験）
□鹿屋の歴史を知る環境の整備と鹿屋の自慢・誇りに思う人・モノ・コトの掘り起しと情報発信

2　まち・人・環境にやさしい取組の推進

□市民が主体となったボランティアやリユース活動、脱炭素社会の実現に向けた取組、多様性を認め合う共生社会の実現など、SDGsの様々なゴールに貢献する取組への支援、啓発